

〔特集〕床面剥離作業からはじめる環境改善と感染管理

房総半島の中央部に位置する千葉県循環器病センターは、心・血管疾患、脳血管疾患、機能的脳疾患を中心に診療されている施設で、良質で安心のできる先進医療を提供されています。同院では昨年、感染管理の観点から清掃業者を変更し、環境の改善を成功させました。特に床面は、これまで汚れの上塗りを重ねていたワックスを一旦剥離して再塗布したことにより、見違えるような仕上がりになりました。感染管理認定看護師の大塚さんと事務局の長谷川さんにお話を伺いました。



千葉県循環器病センター



〒290-0512
市原市鶴舞 575
代表番号 :0436-88-3111
FAX:0436-88-3032
<https://www.pref.chiba.lg.jp/junkan/>

清掃管理の見直しと、 全館剥離による床面の復元に向かって

— 清掃管理の見直しを行った経緯から教えてください

大塚: 感染管理を担当するようになり、衛生的な環境を整えるためには、今までのようなビル清掃ではダメだ。まずそこから変えていきたい! 清掃業者を変えたい! と強く思っていました。ただ、県立病院ですので、今までの県のやり方である入札制度そのものを変えなくてはいけないという、とても高いハードルがありました。そんな中、私はずっと「掃除が問題だ」ということを言い続けていたのですが、事務局の中に同じ意識を持つ方がいて、その方に私の意見を拾っていただき、最終的には上手く入札制度を変えることができました。



千葉県循環器病センター
感染管理認定看護師
大塚モエミさん

長谷川 (事務部): 入札方法を、一般競争入札ではなく、総合評価落札方式に変更しました。単に金額だけで判断するのではなく、総合的に評価して業者さんを選んでいこうとするものです。県立病院が入札方法を変えたという実績は、及ぼす影響力も非常に大きく、市立の病院などに対する強い後押しになったようです。

大塚: リジョイスさんに入ってもらって、まず、普通にキレイにさせていただくことをお願いしました。今までは、普通にキレイにしようってこともできなかった位でしたから…。リジョイスさん自体は、帝京大学ちば総合医療センターをはじめ、いくつかの病院の清掃を担当されていて、その状況を見て知っていたので、やってくれればいいなと思っていました。

効果がわかりやすい、見た目の改善から

— まず、床面の改善から取り組まれたと伺いましたが…

大塚: 掃除ってキレイになっているのが当たり前ですが、その当たり前をどうやってみんなに実感してもらえらかって考えたときに、私はやっぱりワックスの剥離だと思ったんです。亀岡さんと意見交換をした中で、床を1度キレイにしてしまえば、汚れているところがわかりやすくなるので、キレイを維持することが楽になること。また、ワックスの剥離は見てすぐに成果がわかるので、事務局や県に対するアピールとしても有効であることなどを考慮して、一番最初にやってもらうことにしました。

亀岡 (リジョイスカンパニー): ここまでワックスを塗り重ねた病院はなかなかありません。弊社にとっても今回のワックスの剥離は、非常にわかりやすい事例でした。そこで、これをスタッフ研修の場としても使わせていただきました。病院に喜んでいただけたの



真っ黒な床面がピカピカに生まれ変わりました

と同時に、弊社スタッフに剥離作業の教育もできたという珍しいケースになりました。

— 両者ともにハッピーになったのですね

大塚: 病院側としても、それなりの費用をかけている分、その成果が目に見えて現れることは大切なことです。やはり「変わらないじゃないか」と言われてしまうと、また元に戻されちゃうかもしれないから。

長谷川: どこでもそうだと思いますが、経営状況の厳しい中で、優先順位を付けて予算を組んでいかないとはいけません。今回、当院としては、清掃に重きを置かざるを得ない状況があったということです。

— ワックスの剥離を行い、キレイに塗り直して、定期的なメンテナンスも余計なコストや手間をかけずにできる方向に変わっていったということですね

大塚: 最初に剥離作業を行ったところでも、キレイは維持されています。また、汚れなくなりましたね。病棟がすごくキレイになったので、現場で働いているスタッフから「こんなにキレイになるんだ」という驚きの声が多く聞かれました。そういえば、ワックス剥離の作業中も「作業の人たちが、きびきび動いているのを見ると気持ちがいい」と、いろんなフロアの人たちから褒められました。この病院の清掃に対して、誇りを持って一生懸命やっている姿を目の当たりにしたことで、自身の仕事への刺激にもなったようです。

— 普段はドライで掃除をして、汚れた場合にはスポット清掃をするという流れですね。作業時間も人工(にんく)も少なく済むのがメリットですね。床以外に清掃しているところで、変わったところはありますか?

大塚: 水まわりがとてもキレイになりました。あまり使う人がいないフロアのトイレまでピカピカになっていて、びっくりしました。あと、ニオイが違いますね。梅雨時には特に古いトイレから漂うニオイがちょっとあったのですが、それもなくなりました。あとは、共用エリアの高頻度接触面の拭き取り掃除も、一生懸命やってくれて

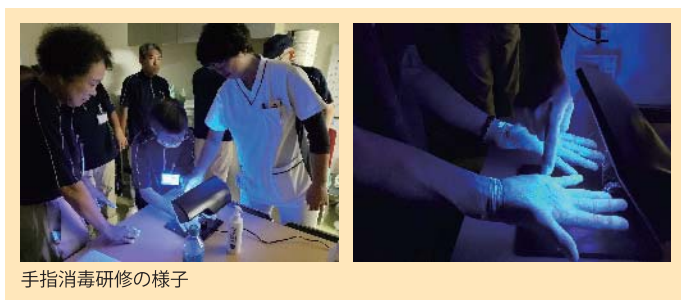
いるのが、みんなの目にも付くようになってきていますね。清掃業者が変わる前は、あちこちが汚いという指摘があったんですけど、そういうのも一切なくなり、とても評価が高いです。

— 患者さんやそのご家族からの評価はいかがでしょう？

大塚:以前は、清掃に対するクレームが年間必ずいくつかあったのですが、去年からはゼロですね。

— こうなるためには、スタッフの方の教育が非常に重要ですが、スタッフの教育はリジョイスのほうでされているのでしょうか？

大塚:リジョイスさんに変わる前は、こちらで時々教育を行っていました。でも今はもうみんなリジョイスさんがやってくれるので、その辺はもうお任せで。安心して見ていられる感じです。



手指消毒研修の様子

— 昨年秋の台風の時も、リジョイスが活躍されたそうですね

大塚:台風で病院の地下が浸水したときの対応がとても素早かったです。資材の提供から実作業を一緒にやってもらうところまで、素早く対応してくれました。全部消毒してから再開するまでに何日もかかると思っていたのが、1日で元に戻せてしまいました。また、その後も屋外の洗浄をやってくれたりしたので、病院の機能復帰がかなり早まりました。非常時でも清掃業者としてどこを衛生的に管理すれば病院機能を戻せるかということ、リジョイスさんが知っていたからこそ、言わなくても素早く対応してくれたのだと感じています。



台風による停電時には
ランタンの明かりの下で食事も

— 被災をきっかけに感染管理に関してできるようになったことなどはありますか？

大塚:何かをやるうしていた矢先にコロナ禍が来てしまったので、結果的には特にないですね。ただ、清掃のことを気にしなくてよくなったので、そこはもう気持ち的にも違いますし、私が事務局に文句を言いに行く機会も減ったので、多分事務局も楽なんじゃないかと思います(笑)。

— 本来あるべき姿になっているっていうカタチですね！

清掃マニュアルの改訂や、清掃ツールの一新も！

— 従来のマニュアルを改訂されたとお聞きしましたが…

亀岡:高齢の方が多いということもあり、もともとあったマニュアルの文字をだいぶ大きくして、また、ポイントも絞ってわかりやすく改訂しました。実際にこちらの病院の現場の写真を使ったことも、こ



わかりやすく改訂された清掃マニュアル

のマニュアルのポイントです。大塚さんにも監修をしていただいて、一緒に作り込めたのはよかったと思っています。

— 清掃の機材や洗剤は、大塚さんのほうで決められるのでしょうか？

大塚:いいえ、リジョイスさんにお任せです。

— それを含めた仕様というカタチで、レベルの高いものを依頼されているんですね

亀岡:そうですね。もちろん、導入する際は、事前に確認させていただいています。

大塚:清掃のカートもキレイになったので、見た目もすごくいいですね。見ていて気持ちのいい掃除の道具を使ってもらえるってところも、ポイントが高いですね。

— 今後、期待されることを聞かせてください

大塚:私は今後、病院清掃の業界は、いわゆるビル清掃から独立したカテゴリーにならないといけないと思っています。

私が病院の事務局にお願いしたいのは、オフィス清掃と病院清掃を一緒にしないでほしいのです。実は、入札制度を変えるときに病院局の方に、病院清掃はオフィス清掃とは違うという話をしたのですが、そのような話は初めて聞かれたようでした。契約を発注する側への教育がもっと必要ですよ。でもその教育は、感染対策担当からというより、病院清掃の業界の方から事務局の契約発注担当の人たちへの啓発ができるとういと考えています。

また今回、清掃業者を変えることができたのは、事務局の力です。私がいくら入札方法を変えてほしいと言っても、事務局の力がなければ不可能でした。今回リジョイスさんに入ってもらって、清掃を変えるとこんなにいいんですよというのがカタチとしてみんなに伝わったので、後はそれを継続してもらえるように、事務局の方にはこれからも引き続きお願いしたいです。

長谷川:あと、栗山さんを始め常駐している方が、多くの他の常駐の業者さんや看護師たちともコミュニケーションを良好にとっていただいているので、いろんな調整が進みやすいですね。何らかのトラブルが起きて本来の業務ができないことは意外とあることですが、コミュニケーションがとれているおかげで、そういうことが基本的にはありません。それは、事務局からすると非常にありがたいところですよ。



リジョイスカンパニーのセンター担当スタッフの面々

— どうもありがとうございました

[リジョイスカンパニー通信]

- ロボット掃除機について -

当社では、ロボット掃除機を活用し、ロボットと清掃スタッフの協働にて、円滑で効率の良い院内清掃を提供している施設がございます。ソフトバンクロボティクス社のロボット掃除機「Whiz」の活用について、ソフトバンクロボティクス株式会社様より取材を受けましたので、今回はその一部をご紹介します。

清掃業界全体で問題になっている「人材不足」。その原因を緩和してくれる存在になってもらえないか、そんな思いでロボット掃除機「Whiz」を導入致しました。

ロボット掃除機が床面の清掃をしてくれるため、清掃スタッフは「高所除塵」「水まわり」の清掃に専念できること。「HEPAフィルター」が搭載されているため、清掃しながら空気まできれいにできることなどがメリットだと考えております。

日中は患者様の動線を考慮し、職員食堂や講堂スペース、夕方以降から夜間帯は外来廊下スペースにて活用しています。WhizにはAIが搭載されており、周辺環境を見ながらスロー走行、停止の判断を行うなど、歩行者に対する配慮も十分に搭載されているため、ゆくゆくは病棟廊下での運用も視野に入れております。

当然、院内感染の防止など、常に清潔な空間を維持することが求められる院内で、誰もが安心して来院できる空間の維持管理に努めていきたいと考えております。

清掃事業部 奥間雅之

*「Whiz」の名称、ロゴはソフトバンクロボティクスの登録商標です。



ソフトバンクロボティクス株式会社
〒105-0021 東京都港区東新橋 1-9-2 汐留住友ビル 14 階
URL : <https://www.softbankrobotics.com/jp/>



編集後記 From Editor

千葉県循環器病センターには、立ち上げより10ヶ月程入らせていただきましたが、剥離ミッションが安定的に推進できましたのは、現場スタッフの皆様が、欠員やクレームなく、日常清掃やトラッシュ業務をしっかりと回して下さっているからこそであります。この場をお借りしまして、心より厚く御礼申し上げます。

また、余談ですが、土地がら車通勤の方が多いのですが、昨年の台風・大雨3連発の場面、どこへ行っても通行止め、信号機も明後日の方向を向いて故障してる、そんな中でも、魔法のように皆さん現場に揃っておられまして、この人達本当に凄いなあと驚嘆したこともありました。

最後になりますが、私達は、大塚さんの、見ていないようで見てる、そして時々私達を褒める、の術にかかり、若干サービス目に清掃したところも、色々な方がいる場で「こんなところもやってくれるのよ～」と宣伝して下さり、以降、半ば「仕様」になってしまうこともあったりなかったり。今回の取材、並びに、日頃からの弊社スタッフや業務に対する厳しくも温かいご配慮に、心より厚く御礼申し上げます。今後もお役に立てるように努力して参りたいと思います。

清掃事業部 相澤真

全ては、お客様へ快適な環境を届けるために。

for the Client for the Society for the Ourselves

リジョイスカンパニーが
医療機関の様々な業務をサポートします。



ニューズレター

Rejoice

No.7

発行日：2020年8月1日

発行：株式会社リジョイスカンパニー ニューズレター編集部

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-3-6 TEL.03-3433-0102 (代表)

URL : <https://www.rejoice-company.co.jp/>

Copyright © 2020 All Right Reserved.